

## この政府ありて、このエセ義人犯罪者あり

Greatchain

July 4, 2022

現在、世界を率先するロシア嫌い、ロシア憎悪の急先鋒は日本であり、日本はまた、最も嘲笑に値する、忠実なアメリカ従僕国として、世界の人々の脚光を浴びている。

ロシアとプーチンを、これほど無条件に、悪として断罪する国は、ほとんど日本だけであろう。プーチンに対するバイデンの悪口もすさまじいが、これは彼の「上の人」からの命令でもあり、また、カナダの首相やイギリスの首相の同調にも、英王室（〈イルミナティ 13 家族〉の一つ）に対する忠誠が働いている。彼らは、日本政府がこのように、自信をもって反プーチンを唱えるとは予想せず、半ば呆れながら日本を担ぎ出し、その利用価値を、非常に大きく評価している。

これに対し、これを報道する RT (Russia Today) などは、その読者コメントが、呆れ驚いた日本への嘲笑と非難で埋め尽くされ、日本人に対する評価は、史上最悪になったと思われる。日本人（彼らは日本政府とは言わない）が、これほど「無思慮で愚かで骨がない」民族とは思わなかった、と彼らは口を揃えて言っている。彼らは日本人に、ロシア支持を求めるつもりはないだろう。ただ、言葉遣いを含めた、ある程度の思慮深さと、この紛争のエスカレートを抑える、何らかの姿勢を示してほしいと思っただろう。態度はむしろ曖昧でよかったのである。

しかし、そうはならなかった。日本政府の、何も考えない、ただアメリカに教え込まれた、ひたすらロシア憎しの、頭は空っぽの（失礼！）問答無用の外交によって、ウクライナ紛争は一気に泥沼に追い込まれることになった。これは、ある程度のキャスティング・ボードを握っていた、日本に責任がある。これによって果てしのないウクライナの戦乱に、日本が道をつけることになった。これ以上、愚かで、世界情勢の読めない、アメリカ帝国に尻尾を振るだけの国はない、と世界は思い始めている。

その「アメリカ帝国」がもう終わりになっているのだから、一極集中でない別の統治の方法を考えようではないか、とプーチンが言っている。それに少しぐらい耳を傾けそうなものだが、日本のメディア・政府連合体は、それを頭から退けようとする。これ以上の馬鹿は考えられないが、これが**我々の指導者たち**の指導である。彼らは真っ赤になって怒るだ

ろう——「暴力の張本人が何を言うか！」しかし、「アメリカ帝国」や「ボックス・アメリカーナ」といった（終末の）論理のもたらした、ウクライナ紛争などより何百倍も大きな暴力については、彼らは黙っている。確かにプーチンは誤算をした、大きな失敗をした。しか、しこの陰謀団どものアジェンダは、この紛争をどこまでも引き延ばすことである。「これでは戦争が終わらないではないか！」——「そうだ、それが我々の狙いだ！」

昨日の新聞記事にあった「NATO がロシアの永久の敵視政策を決定」という記事は、まさにそれである。NATO というのは無頼漢の集まりだと昔から言われ、North-Atlantic Treaty Organization とは、North-Atlantic **Terrorist** Organization のことだと言われる。犯罪者集団がロシアを永遠の敵とすることに決めた——これがニュースになるのか？ 狂っている！ 北大西洋条約機構とは何か？ それは「ロシアを呪い殺す計画」だと考える方がよい。日本人の中には、自分の利益を考えず、世界や日本のために、プーチンを「丑の刻参り」で呪い殺そうとする者がいるという。この政府ありて、このエセ義人犯罪者あり、とすべきである。

プーチンをどう見るか？ 彼は馬鹿か？ キチガイか？

偽善とウソで固めた、人類そのものを敵視する犯罪者集団「アメリカ帝国」を、（日本を含めた）腐った西側諸国が見て見ぬふりをし、それが世界の自然のあり方であるかのように、受け入れている——この言語道断の現状に対し、プーチンがついに怒りをぶつけた。——プーチンのウクライナ侵攻は、そのように見ることができる。

そのような観点から、世界情勢のおそらく最も深い分析を行っている SOTN が、「〈ウソの帝国〉が 9・11 のツイン・タワーのように崩壊する」という論文を紹介している。著者はここで、崩壊しつつある西側文明を、燃え盛るローマの街を楽器を弾きながら楽しんで見物する、ローマ皇帝ネロに喩えている。

9・11 事件は、アメリカが民衆を騙し、これを反米テロリストの仕業として、世界のあらゆる無実の老若「テロリスト」を殺し、盤石の帝国を築こうとしたが、彼ら自身が最悪のテロリストだった、という事件である。この残虐な大犯罪のカラクリは、ほとんどの民衆（特に中東の）に分かっていたのだが、彼らは、メディア（CIA）の徹底したウソ戦略を通じてそれを沈黙させ、かろうじて 21 年後の現在まで、ウソの皮を一枚だけ保ってきたのである。

今、我々の間で、靈魂についての認識が加速的に高まりつつあり、人に苦痛を与えた犯罪者が逃れることのできない「カルマ」について、ほとんどの人が知っている。身分とか人

種によって、アイツラと俺たちの間に差ができるなどということを、信ずる者は今では誰もいない。人間は魂の発達程度によって、差ができるだけである。